

令和7年度

事業報告書

社会福祉法人 きづき会

令和7年度 特別養護老人ホームいなさ園 事業報告書 特養部門

令和8年3月31日現在

1. 特養部門年次目標について

・表Ⅰ 参照

2. 入居者の動向

①入居者数

男 性	15 名	計 74 名
女 性	59 名	

②入退所状況

入 所	男 性	6 名	計 26 名
	女 性	20 名	
退 所	男 性	9 名	計 28 名
	女 性	19 名	

③退所理由

	園にて死亡	園外にて死亡	医療機関入院	その他
人 数	21 名	5 名	2 名	0 名

④年齢構成・在籍期間

		平均年齢	最高年齢	在籍期間
男 性	15 名	85.7 歳	94 歳	3 年 5 月
女 性	59 名	89.0 歳	105 歳	3 年 3 月
計	74 名	88.3 歳	105 歳	3 年 3 月

⑤平均介護度

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均 介護度
男 性	0	1	2	8	4	4.0
女 性	0	1	3	31	24	4.3
計	0	2	5	39	28	4.3

⑥入居者の移動状況

・表Ⅱ 参照

⑦ベッド稼働率

・表Ⅲ 参照

⑧リハビリ実施状況

・表Ⅳ 参照

3. 入居者の生活

①入居者支援

i) グループケア

本館グループ、新館グループの2グループ体制で、それぞれに介護職員を配置し、施設ケアを提供した。介護職員の確保が難しいなか、人材不足を補い効率的・効果的にケアを提供できるようグループ運営に努めた。

ii) ケアプラン

グループの構成メンバーと施設ケアマネジャーを中心として、入居者・職員共に2つのグループに分かれ、グループごとに月に一度のカンファレンスを行い、その中で個別の生活支援計画の作成、見直しを行いました。

iii) グループリーダー会

グループ毎のリーダーが月・2回会議を行い、グループの調整・課題解決等を行いました。会議を重ねることで、リーダー育成も同時に行えるよう配慮しました。

iv) グループ会

毎月1回会議を行い、グループ運営について介護職員間で意見交換を行う。

働きやすい環境作りの一環として、従来の時間外の開催から、時間内（日中1時間）の開催に変更した。

v) 専門委員会

排泄介助、事故防止、看取り、口腔ケアなどの各委員会を設置し、全職員が委員会に所属。それぞれの分野ごとに委員会が中心となりサービス内容を検討、改善を図る。委員会主催の研修会を実施し、介護サービスの向上を図りました。

vi) 入居者着替えの実施

入居者の生活リズムを整え、また、寝たきり防止・ADLの向上など活動的な日常生活を過ごして頂くよう、朝・夕の着替えの実施を推進しました。

vii) 外出支援

新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが5類相当に変更されたことに伴い、施設ケアとしての外出支援を再開する。実施にあたっては、各グループ毎月1名程度を対象に計画し、自宅や希望される場所へ2時間程度の外出を提供できた。

viii) 介護相談員事業

出雲市主体による介護相談員が、入居者の話を聞き相談に応じる活動を通じ、利用者の疑問や不満、不安の解消を図る。その情報を受け介護サービスの質的な向上を図る。

応接室にて個別で面談を行うが、お互いがマスク着用であるためアクリルボードの使用は終了した。

②年間行事

七夕祭り	未実施	新年会	1月7日(水)
納涼祭	8月27日(水) 内部だけで小規模に実施	とんどさん	1月17日(土)
敬老祝賀会	中止 コロナクラスターのため	節分	未実施
文化祭	11月8日(土)	ひな祭り	未実施
クリスマス忘年会	12月24日(水)	避難訓練(全体)	6月11日(水)
		避難訓練	10月29日(水)

③クラブ活動

・花バサミクラブ（生け花） 毎月最終水曜日 10:00～

※新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

4. 施設実習受入れ

実習受任施設 トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校
2月9日～2月18日 1年生 2名
島根県介護等体験
6月2日～6月6日 島根大学教育学部 1名
6月16日～6月20日 島根大学法文学部 1名
9月1日～9月5日 島根大学教育学部 1名
島根県立大学（老年看護学実習）
10月28、30日 1年生 2名
1月26、27、29日 3年生 2名
実習生総数 9名

5. 外国人材受入れ

第3期_外国人材

職 種	介護職員
国籍／管理会社	ミャンマー／AYA ホールディングス
採用日・人数	令和7年9月24日（女性2名）
育成体制	生活責任者：施設長他事務職員 業務責任者：石飛麻紀子介護指導員（サポート：SW, CM） 世話人：三島笙子、藤江真子 法定研修担当者：施設長
育成方法概要	OJTによる指導と業務責任者並びに世話人の定期面談 外国人材担当者会議を各月実施

第4期_外国人材

職 種	調理補助
国籍／管理会社	フィリピン／オノデラ ユーザー ラン
採用日・人数	令和8年3月31日（女性2名）
育成体制	生活責任者：施設長他事務職員 業務責任者：高野 恵 世話人：森廣美咲、橋本真衣
育成方法概要	OJTによる指導と業務責任者並びに世話人の定期面談 外国人材担当者会議を適時実施

6. 外部事業受入れ

出雲市役所 介護相談員事業 計4回 （1回/3か月）

7. 短期入所生活介護

短期入所 i ベッド数 : 10 ベッド
ii 基本数（ベッド数×総日数） : 3,650 日
iii 延利用実数 : 2,813 人
iv ベッド稼働率 : 77.1% ・表Ⅲ 参照

令和7年度事業報告（看護部門）

1. 職員体制

常勤看護職員	6 名	非常勤看護職員	5 名
--------	-----	---------	-----

2. 平常業務

体重測定	毎月 1 回（対象者＝入所者全員）
定期薬依頼	処方 1 回／2 週
回診補佐	1 回／1 週（水曜日）
デイサービス急変時対応	月～金曜日
バイタルサインチェック	最低全員月 1 回、健康状態により 1 日 4 回 （体温、血圧、脈拍、酸素濃度、一般状態等）
各種検査	心電図、検尿、貧血、炎症反応、血糖、肝機能、腎機能、 脂質、電解質、潜血便、その他
採血・注射	指示による
処 置	創消毒、軟膏塗布、シップ貼付、点眼、経管栄養チューブ 交換、人工肛門ラパック交換、バルンカテーテル交換
介助業務	経管栄養注入、食事介助、配薬準備、入浴観察
薬品管理	薬品全般、消毒液等の管理、定期薬受け
食事指導	職種間での協議及び連絡
オンコール	夜間の状態変化、緊急時対応
ショートステイ	入所時の問診、バイタルチェック、内服管理、排便管理

3. 各科受診

歯科往診	（随時、16 回／年）	眼科受診	（随時、0 回／年）
精神科受診	（1 回／月、29 回／年）	整形外科受診	（随時、22 回／年）
中央病院受診	（随時、9 回／年）	医大受診	（随時、1 回／年）
その他受診	（随時、7 回／年）	皮膚科受診	（随時、2 回／年）

4. 書類管理

保険証、福祉医療費資格証、産業廃棄物管理票（マニフェスト）

5. 入退院及び死亡

入院：9 名 死亡退所：26 名 長期入院等退所：2 名

6. 職員健康診断

5 月（全職員）、11 月（夜間業務従事者のみ）

7. その他の取組み

- ・ 重度化、ターミナルケアへの取組み
- ・ 看護学生、実習受け入れ

令和7年度 事業報告書（栄養部門）

1. 行事食について

7月 7日	七夕祭り 特別献立	1月 1日、2日	おせち料理
9月27日	敬老会 特別献立	1月 7日	新年会 特別献立
11月 8日	文化祭 特別献立	3月 3日	ひな祭り 特別献立
12月24日	クリスマス献立		

2. 入所者の食事について

給食栄養量については、入所者個々の性別、年齢、身長、体重、身体活動量等で、算出した数値を目安に、食事摂取状況、体重の変化、体調を考慮し、食事量を調整し提供した。

また、栄養ケア・マネジメントを行い、定期的に栄養状態を評価し、必要な方に栄養補助食品を提供した。

①咀嚼、嚥下困難な方への対応

個々の摂食、嚥下機能の状態により、トロミ調整食品、ゼリー食用、ウルトラ寒天等を使用。

食事形態の中で、魚、肉のソフト食、あんかけ食等も提供した。

②個別にアセスメントを作成し、嗜好、禁忌食品、アレルギー等を考慮し、代替食を行った。

③看取り期は、ご本人の好みの物を食べ易い形状で提供した。

④療養食加算—糖尿病食1名（60円/日）

※入所者の食事形態別人数（長期入所者のみ）

	給食数														経腸栄養	
	主 食									副 食						
	米飯	おにぎり	全粥	七分粥	五分粥	おもゆ	ミキサー	パン	合計	軟菜	刻み	超刻み	ミキサー	ゼリー		合計
朝食	11	1	41				16	3	72	11	23	27	11		72	2
昼食	12	1	42				16	1	72	11	23	27	11		72	2
夕食	11	1	42				16	2	72	11	23	27	11		72	2

3. 給食栄養摂取状況

給食延食数：87,631 食（ショートステイを含む）

4. デイサービス

給食延食数：6,670 食

○表 I

令和7年度 年次目標に関する評価

【いなさ園 特養部門】

【全体目標】	
目標 1	ケアの質向上のため、相手の立場に立った思考力を身に着ける。あわせて入所者並びに来園者に対する接遇の向上につなげる。
評価	各会議を通じて、ケアの質向上に向けた話合の時間を設けていた。上半期は苦情に上がることもあったが、改善をしている。接遇について、必ず挨拶を行う等を徹底した。
目標 2	各部門において業務内容と必要人員を見直し、より効果的な勤務時間と人員配置に改善することで生産性向上を目指す。
評価	業務見直しの実施前に、主に調理部門で人員不足が生じた。派遣・人材紹介等の利用のほか、介護部門ではスポットワークも導入して人員不足に対処した。業務見直しや生産性向上につなげる取組は十分と言えなかった。
目標 3	ノーリフティングケアを実践することで、職員、利用者双方の負担を軽減し、健康で永く働ける労働環境を作る。
評価	取組開始段階で、新型コロナ感染症やノルウイルス感染対応により、取組継続のタイミングを逸した。次年度は、職員体制や必要物品の選定を進めつつ、補助金等の活用も見据えて準備を行うこととする。
目標 4	福祉施設は生活の場であることを意識し、清潔で快適な生活環境を提供する。
評価	介護職員による清掃にルールを定め、定期的実施して清潔を保つことが概ねできている。次年度に向け、清掃職員体制の改善を行うため協議を重ねると共に職員採用をすすめた。
【事務部門】	
目標 1	新たな連携ツールとして、LINEワークス、Gメールを利用し、契約者への迅速な連絡を行えるようにする。
評価	スムーズに施設側から通知ができ、事務負担の軽減につながった。
目標 2	備品の無駄が出ないように在庫管理、必要性の有無を把握し、経費削減に努める。
評価	発注自体は管理出来ていたが、全体の在庫管理の把握による経費削減の見える化をもう少し行いたかった。
目標 3	施設全体の接遇意識を高める。
評価	事務での接遇意識は高かったが、施設全体への接遇意識向上が全体会での研修だけでは足りなかった。定期的な声掛け等必要だった。
【支援相談員部門】	
目標 1	科学的介護情報システム（LIFE）について、フィードバックの分析から個別ケアへ活用できる体制構築。
評価	LIFE フィードバックの定期的な分析体制を構築し、抽出した課題から施設全体

	の改善につなげることができた。しかし、分析結果を個々の利用者の個別ケア計画や具体的な介入へ反映させるアプローチには至っておらず、個別ケアへの連動や活用体制の構築においては、今後の課題を残す結果となった。
目標 2	介護業務全般を効率的かつ効果的に実践するために、記録の ICT 化・ノーリフトケア・排泄ケアの低頻度交換等を、適切に施設ケアに取り入れる。
評価	各施策の導入による業務効率化を目指したが、現場への定着や運用体制の整備遅れにより、適切な運用には至らず、全体として順調に進まなかった。業務効率化と効果的な実践という成果を出すには至っておらず、次年度は職員教育の徹底と、自施設の現状に合わせた段階的な導入計画の再構築が必要である。
【介護部門】	
目標 1	ノーリフティングケアの知識や技術、福祉用具の導入によって、身体的負担を改善するとともに、入所者に安心安全なサービスが提供できる。
評価	福祉用具を導入し負担への軽減には繋がったが、全体としてはまだ不十分な所もある。福祉用具使用での事故はなく安全に行うことができた。
目標 2	排泄ケアの低頻度交換へ取り組みを開始し、ケアマニュアルの見直し周知により、介護職員個人の質向上によって、施設として排泄ケアの質の底上げを行う。
評価	排泄ケアの低頻度交換は実施しているが全体までの低頻度交換まで行えていない。ケアマニュアルを見直し、排泄ケアの外部指導を受け質向上することができた。
目標 3	記録の ICT 化を更に進め、記録内容の精度向上、他職種とのスムーズな連携によりケアの質向上につなげる。
評価	ICT 化への移行は行えたが、記入漏れ等あり精度向上への課題があり。他職種との情報共有や連携しケアへの質向上につながった。
【看護部門】	
目標 1	高齢者の健康障害の複雑さと多様性を理解し、利用者の健康維持が出来るよう各職種との連携のもと、疾病の早期発見に努める。
評価	介護職員より利用者の体調変化の報告を受け、嘱託医へ報告相談を行い、採血・投薬・受診等行っていた。採血結果を栄養士に相談し、入所者の健康維持が出来るよう連携することができた。
目標 2	家族に利用者の状態変化を迅速に連絡し、家族に説明した内容が職員間で情報共有が行えるよう努める。
評価	当日又は電話が繋がらなければ翌日に利用者の状態変化を家族連絡出来ていた。家族連絡した内容を介護ソフト(すごろく)の報連相(家族連絡欄)に記載し情報共有が行っていた。
【機能訓練部門】	
目標 1	ADL 状況、身体機能の変化を明確化するために、Barthel Index、関節可動域、筋力などの評価を適宜行う。
評価	利用者様の身体状況の変化を把握するため、定期的に評価を行い、結果をもとに訓練内容や計画書の見直しに活用することができた。今後は1人のスタッフだけ

	による評価ではなく、リハスタッフ全体の評価を反映し、より正確な評価を行っていきたい。
目標 2	利用者様の QOL 向上を目指し、日々のコミュニケーション、他職種との連携の強化を図り、1 人 1 人の生活に寄り添った機能訓練を提供する。
評価	利用者様とのコミュニケーションを大切にし、一人一人の生活状況の把握に努め、多職種との情報共有や連携を行いながら機能訓練を立案、実施することができた。今後は身体機能面へのアプローチだけでなく、レクや作品作りなどを通して利用者様の楽しみなど精神面の支援も行っていきたい。
目標 3	利用者様のニーズ、身体機能など包括的に評価し、個別機能訓練計画書を作成する。
評価	利用者様のニーズ、身体機能を計画書に反映することができた。今後はさらに意思疎通の困難な利用者様に対しても、個々の思いやニーズを汲み取り、利用者様に寄り添った計画書の作成に努める。
【調理部門】	
目標 1	利用者様の個々の体調を把握し、美味しく食べやすい食事の提供、また、季節を感じて楽しむことの出来る食事を提供する。
評価	利用者様個々に合った食事と量にも配慮し提供できた。また、季節の食材を多く取り入れ、行事食においても色彩に拘った食事の提供ができた。
目標 2	突発的な事や食事形態の変更等があっても、冷静に対応し、素早く情報共有を行う。
評価	情報共有を行い、突発的な事や急な食事変更等にも対応し、少ない人数でも安全な食事を提供することができた。
【短期入所部門】	
目標 1	多職種協働でご利用者、ご家族をしっかりと支援し、置かれている環境等を適切に把握し安心安全に自宅での生活が継続でき、尚且つ安定したサービスが提供できるよう努めます。
評価	ご利用者やご家族に変化があった際は、多職種で連携することで方針を統一し、担当者会議等で、自職種だけでなく他職種の視点を踏まえた提案や意見交換も活発に行うことができた。それにより安心安全に自宅での生活の継続に繋げられるように努めた。
目標 2	ご家族にもしっかり目を向け、ご利用者の課題解決に取り組み、ご利用者、ご家族に安心と幸せを感じていただけるサービスの提供に努めます。
評価	ご家族が自分の時間を確保できているか、または介護に関する負担が軽減できているかなど、ご家族にもしっかり目を向けることにより、サービス提供時以外でも、ご利用者やご家族に変化があった際も、ご家族から気兼ねなく相談していただけるような関係性が築けるように努めた。

○表 Ⅱ

令和7年度 特別養護老人ホームいなさ園 入居者移動状況表

	新規入所		退所		入院		外泊		月末在籍		入院延べ日数		入所延べ人数	
4月	4		1		1		0		79		29		2298	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	4	0	1	1	0	0	0	18	61	29	0	511	1787
5月	2		6		3		0		75		27		2354	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	1	2	4	1	2	0	0	17	58	23	4	505	1849
6月	5		1		2		1		79		10		2319	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	4	0	1	0	2	0	1	18	61	0	10	532	1787
7月	1		3		0		0		77		0		2455	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	1	1	2	0	0	0	0	17	60	0	0	553	1902
8月	0		1		1		0		76		7		2351	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	0	1	0	0	1	0	0	16	60	6	1	500	1851
9月	3		1		2		0		78		9		2283	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	2	0	1	0	2	0	0	17	61	0	9	506	1777
10月	0		4		3		0		74		24		2306	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	0	2	2	1	2	0	0	15	59	14	10	462	1844
11月	3		2		3		0		75		65		2180	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	2	1	0	2	1	2	0	0	17	58	30	35	455	1725
12月	2		1		3		0		76		93		2254	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	2	1	0	1	2	0	0	16	60	31	62	475	1779
1月	1		2		3		0		75		41		2304	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	0	0	2	1	2	0	0	16	59	5	36	491	1813
2月	2		4		1		0		73		3		2058	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	2	1	3	0	1	0	0	15	58	0	3	427	1631
3月	3		2		1		0		74		23		2276	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	2	1	1	0	1	0	0	15	59	0	23	487	1789

令和7年度 特別養護老人ホームいなさ園バッド稼働率 状況表

利用月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		4月30日	5月31日	6月30日	7月31日	8月31日	9月30日	10月31日	11月30日	12月31日	1月31日	2月28日	3月31日	366日
入所	バッド数	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	960
	基本数 (バッド数×総日数)	2400	2480	2400	2480	2480	2400	2480	2400	2480	2480	2240	2480	29200
	延利用実数	2298	2354	2319	2455	2351	2283	2306	2180	2254	2304	2058	2276	27438 (28577)
短期入所	稼働率	95.8%	94.9%	96.6%	99.0%	94.8%	95.1%	93.0%	90.8%	90.9%	92.9%	91.9%	91.8%	94.0% (97.9%)
	バッド数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
	基本数 (バッド数×総日数)	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	280	310	3650
合計	延利用実数	262	247	244	224	280	248	220	198	205	199	245	241	2813 (2632)
	稼働率	87.3%	79.7%	81.3%	72.3%	90.3%	82.7%	71.0%	66.0%	66.1%	64.2%	87.5%	77.7%	77.1% (72.1%)
	バッド数	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	1080
	基本数 (バッド数×総日数)	2700	2790	2700	2790	2790	2700	2790	2700	2790	2790	2520	2790	32850
	延利用実数	2560	2601	2563	2679	2631	2531	2526	2378	2459	2503	2303	2517	30251 (31209)
	稼働率	94.8%	93.2%	94.9%	96.0%	94.3%	93.7%	90.5%	88.1%	88.1%	89.7%	91.4%	90.2%	92.1% (95.0%)

() 内は前年度実績

※ 短期入所は振替・身障利用を含む。

(稼働率)

140%

120%

100%

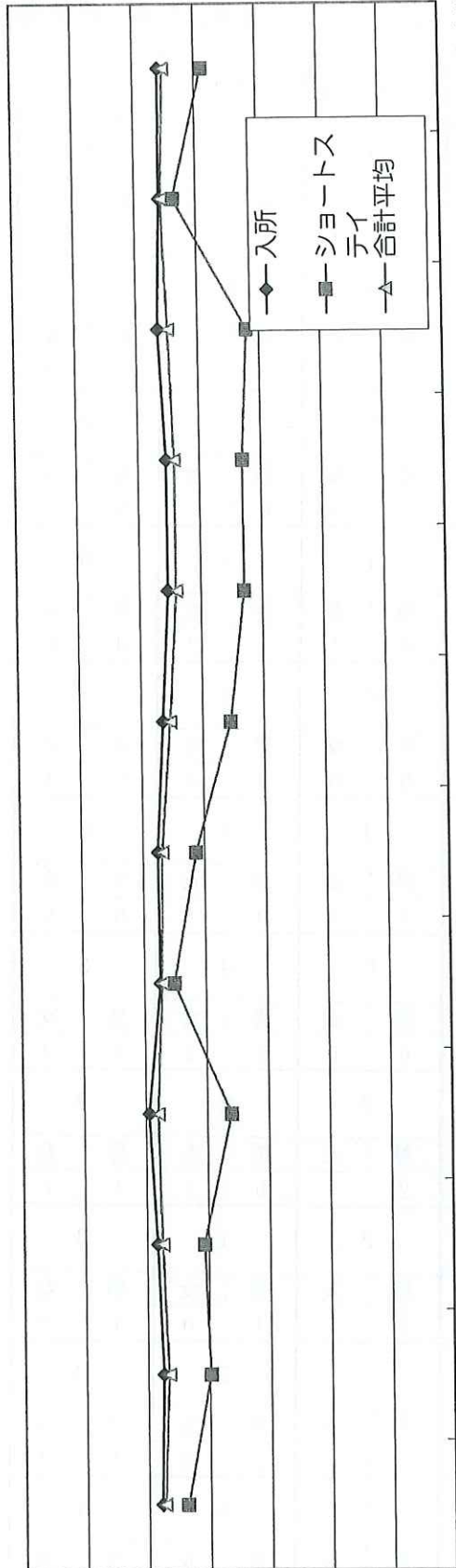
80%

60%

40%

20%

0%



リハビリ実施状況

令和7年3月31日現在

項 目		実日数	延べ人数	詳 細							合計
				ROM	滑 車	大腿 四頭筋	歩 行	立位 (ウォーカー) (平行棒)	座位 温熱 その他	リハビ リ 体操	
4月	6年度	21	798	478	9	267	69	341	42	327	1533
	7年度	22	967	501	20	278	109	285	3	457	1653
5月	6年度	21	937	463	18	444	117	447	49	460	1998
	7年度	20	567	343	11	147	58	143	11	200	913
6月	6年度	20	915	466	17	386	118	423	49	472	1931
	7年度	20	752	384	19	255	100	266	6	301	1331
7月	6年度	22	927	518	18	360	116	369	37	330	1748
	7年度	22	909	401	19	270	118	274	14	401	1497
8月	6年度	21	945	534	15	312	100	314	26	435	1736
	7年度	20	850	418	17	236	102	262	23	408	1466
9月	6年度	19	920	514	18	288	98	276	11	446	1651
	7年度	20	790	380	19	219	96	224	19	375	1332
10月	6年度	22	1093	571	21	346	96	365	22	555	1976
	7年度	22	855	386	20	225	102	230	18	376	1357
11月	6年度	20	1013	520	20	323	96	362	19	516	1856
	7年度	18	786	349	18	220	114	231	17	449	1398
12月	6年度	20	854	449	20	275	74	311	10	400	1539
	7年度	20	686	364	9	188	85	247	14	227	1134
1月	6年度	19	793	431	17	250	89	257	0	381	1425
	7年度	19	820	363	18	220	113	290	18	414	1436
2月	6年度	19	706	360	14	239	83	249	5	346	1296
	7年度	18	809	357	18	221	117	290	17	485	1505
3月	6年度	11	285	211	5	74	25	73	0	23	411
	7年度	21	959	419	21	262	136	369	19	531	1757
計	6年度	235	10186	5515	192	3564	1081	3787	270	4691	19100
	7年度	242	9750	4665	209	2741	1250	3111	179	4624	16779

令和7年度 事業報告：通所介護事業

1. 事業所名：いなさ園デイサービスセンター

2. 職員体制状況

職 種	員 数	所持資格、勤怠状況等
管 理 者	1 名	介護支援専門員・介護福祉士、生活相談員と兼務
生活相談員	2 名	管理者と兼務 1 名 介護職員と兼務 1 名
介護職員	7 名	介護福祉士 7 名、内 3 名訪問入浴介護事業所と兼務
看護職員	2 名	准看護師 2 名。機能訓練指導員及び訪問入浴介護と兼務

3. 事業目標数、営業日数及び利用者動静

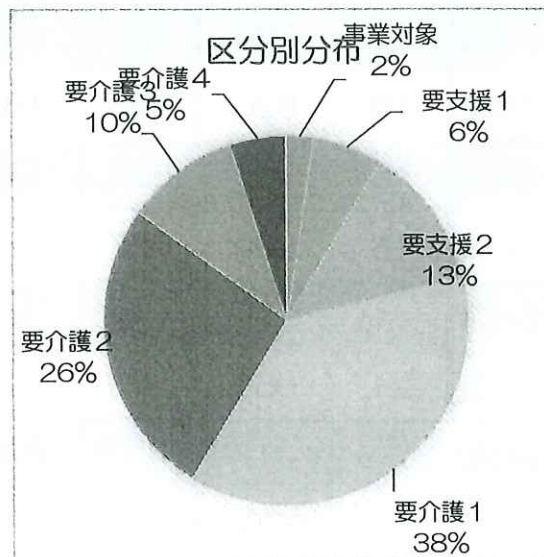
区 分	月/年間延べ目標件数	営業日数	新規登録	終了	3 月末登録
通所型独自	80 件/960 件	255 日	4 件	2 件	17 件
通所介護	480 件/5,760 件		22 件	25 件	63 件

4. 事業実績（「()」内は昨年実績）

	件 数					
	通所型独自		通所介護		合 計	
R7.4 月	75 件	(50 件)	516 件	(542 件)	591 件	(592 件)
5 月	80 件	(70 件)	496 件	(513 件)	576 件	(583 件)
6 月	73 件	(65 件)	472 件	(472 件)	545 件	(537 件)
7 月	74 件	(57 件)	477 件	(424 件)	551 件	(481 件)
8 月	68 件	(63 件)	468 件	(479 件)	536 件	(542 件)
9 月	77 件	(64 件)	463 件	(492 件)	540 件	(556 件)
10 月	75 件	(68 件)	493 件	(535 件)	568 件	(603 件)
11 月	69 件	(75 件)	423 件	(483 件)	492 件	(558 件)
12 月	81 件	(71 件)	440 件	(476 件)	521 件	(547 件)
R8.1 月	73 件	(68 件)	434 件	(428 件)	507 件	(496 件)
2 月	77 件	(68 件)	409 件	(447 件)	486 件	(515 件)
3 月	79 件	(74 件)	475 件	(497 件)	554 件	(571 件)
合 計	901 件	(793 件)	5,566 件	(5,788 件)	6,467 件	(6,581 件)

5. 介護認定等区分（「()」内は昨年実績）

区 分	人 数	
事業対象者	2 人	(2 人)
要支援 1	5 人	(5 人)
要支援 2	10 人	(9 人)
要介護 1	30 人	(32 人)
要介護 2	21 人	(20 人)
要介護 3	8 人	(7 人)
要介護 4	4 人	(8 人)
要介護 5	0 人	(0 人)
平均介護度	1.86	(1.73)



6. 加算取得状況

加算名	単位数	算定件数
サービス提供体制強化加算(Ⅰ): 独自	88 単位/月、176 単位/月	901 件
サービス提供体制強化加算(Ⅰ)イ: 介護	22 単位/回	5,566 件
個別機能訓練加算(Ⅰ)イ	Ⅰイ: 56 単位/日	2,607 件
個別機能訓練加算Ⅱ	20 単位/月	0 件
入浴介助加算(Ⅰ)、(Ⅱ)	Ⅰ: 40 単位/日	4,004 件
ADL 維持等加算(Ⅰ)	30 単位/月	0 件
ADL 維持等加算(Ⅱ)	60 単位/月	0 件
科学的介護推進体制	40 単位/月	0 件
口腔栄養スクリーニング加算(Ⅰ)(Ⅱ)	Ⅰ: 20 単位/回、Ⅱ: 5 単位/回	0 件
栄養アセスメント加算	50 単位/月	0 件
介護職員処遇改善加算Ⅰ: 独自	所定単位×92/1000	901 件
介護職員処遇改善加算Ⅰ: 介護	所定単位×92/1000	5,566 件

7. 今期のケース分析

例年通り要介護1及び2のご利用者の割合が高い状態ですが、杖、歩行器、車椅子等の何らかの福祉用具を使用される方が増えています。利用回数を増やされるご利用者が増える一方、短期入所生活介護等の宿泊サービスの日数を増やされる方もあり、できるだけ空きが多くならないように新規の受け入れをしたりして予定を組み、毎日の登録者数は定員を満たしていました。しかし、入院者数がかなり多く実績が上がらない要因となりました。

8. 令和7年度事業計画目標 取組最終報告

①初期設定のみ完了している LIFE の早期開始を目指す。すでに開始しておられる特養の相談員に助言を頂きながら進めていく。

昨年秋から職員全員に担当を振り分けてデータ入力と更新を開始し、概ね基盤ができた。6月から算定開始予定としている。

②昨年度もほぼ参加できていないため、今年度こそ外部研修に積極的に参加する。

中堅者研修、通所部会研修、フォローアップ研修、老施協研修、BCP 研修、認知症研修、レクリエーション研修、車椅子研修等参加することができた。

③上半期実施を目指して利用満足度調査を実施する。結果をもとに事業所の現状理解と改善等を行う。

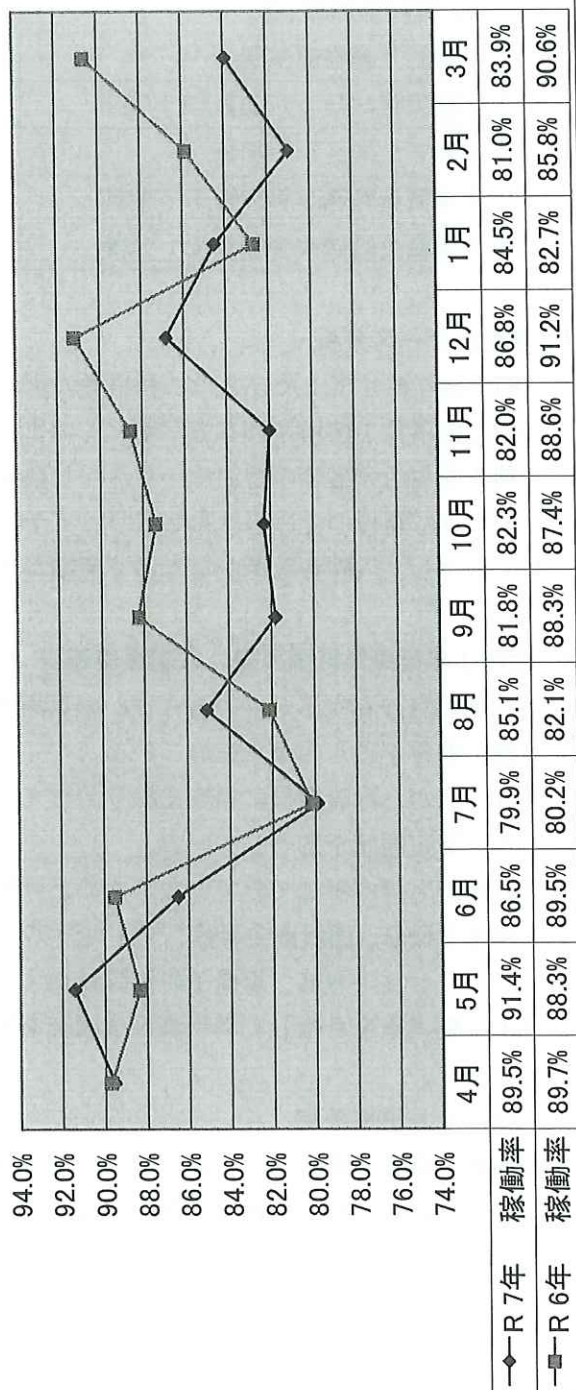
今年6月実施予定。

④新規入職者の育成をしっかり行い、長く勤めていただけるよう考慮しながら勤務に当たる。個々の能力に応じた指導や対応を行っている。

令和7年度 通所介護事業所 稼働状況 (総合事業、介護事業)

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	22	21	21	23	23	21	22	20	20	20	20	22	255
定員数	660	630	630	690	690	630	660	600	600	600	600	660	7650
利用実数	591	576	545	551	536	540	568	492	521	507	486	554	6,467
利用内訳/介	516	496	472	474	468	463	493	423	440	434	409	475	5,557
利用内訳/総	75	80	79	77	68	77	75	69	81	73	77	79	910
R7年稼働率	89.5%	91.4%	86.5%	79.9%	85.1%	81.8%	82.3%	82.0%	86.8%	84.5%	81.0%	83.9%	84.5%
R6年稼働率	89.7%	88.3%	89.5%	80.2%	82.1%	88.3%	87.4%	88.6%	91.2%	82.7%	85.8%	90.6%	87.1%

いなさ園 通所介護事業所 稼働率



令和7年度 事業報告：訪問入浴介護事業

1. 事業所名：いなさ園訪問入浴介護事業所

2. 職員体制状況

職 種	員 数	所持資格、勤怠状況等
管 理 者	1 名	介護福祉士、介護職員と兼務
介護職員	3 名	介護福祉士、内 2 名通所介護と兼務
看護職員	3 名	看護師 1 名、准看護師 2 名。通所介護と兼務

3. 事業目標数、営業日数及び利用者動静

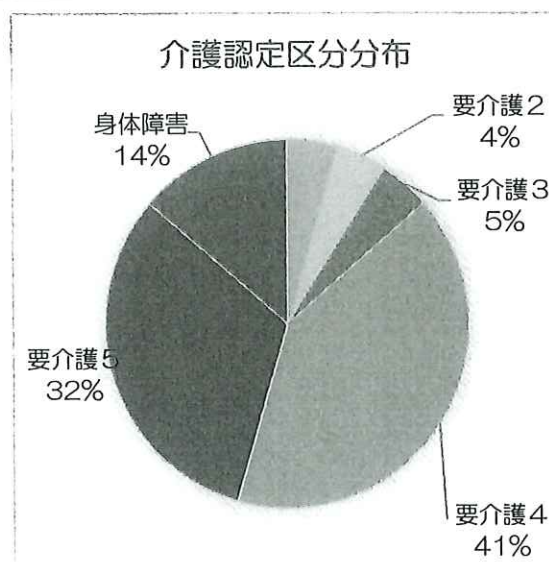
区 分	月/年間延べ目標件数	営業日数	新規登録	終了	3 月末登録
介護保険	90 件/1,080 件	243 日	20 件	23 件	21 件
障がい支援	10 件/120 件		1 件	1 件	3 件

4. 事業実績（「()」内は昨年実績）

	件 数					
	介護保険		障がい支援		合 計	
R5.4 月	106 件	(112 件)	16 件	(7 件)	122 件	(119 件)
5 月	97 件	(96 件)	13 件	(10 件)	110 件	(106 件)
6 月	87 件	(98 件)	16 件	(9 件)	103 件	(107 件)
7 月	90 件	(112 件)	10 件	(11 件)	100 件	(123 件)
8 月	93 件	(103 件)	10 件	(12 件)	103 件	(115 件)
9 月	89 件	(95 件)	10 件	(11 件)	99 件	(106 件)
10 月	93 件	(108 件)	9 件	(13 件)	102 件	(121 件)
11 月	85 件	(91 件)	6 件	(12 件)	91 件	(103 件)
12 月	83 件	(92 件)	7 件	(10 件)	90 件	(102 件)
R6.1 月	83 件	(83 件)	6 件	(9 件)	89 件	(92 件)
2 月	82 件	(82 件)	5 件	(12 件)	87 件	(94 件)
3 月	92 件	(97 件)	8 件	(15 件)	100 件	(112 件)
合 計	1,080 件	(1,169 件)	116 件	(131 件)	1,196 件	(1,300 件)

5. 介護認定等区分（「()」内は昨年実績）

区 分	人数	
要支援 1	0 人	(0 人)
要支援 2	0 人	(0 人)
要介護 1	1 人	(2 人)
要介護 2	1 人	(2 人)
要介護 3	1 人	(1 人)
要介護 4	9 人	(7 人)
要介護 5	7 人	(9 人)
障がい支援	3 人	(3 人)
平均介護度	4.2	(3.90)



6. 基本報酬及び加算取得状況

①基本報酬

基本報酬及び加算名称	単位	算定件数
介護予防訪問入浴介護	852 単位／回	0 件
訪問入浴介護	1,266 単位／回	1,180 件
清拭又は部分浴	所定単位の 100 分の 90	16 件

②加算部分

基本報酬及び加算名称	単位	算定件数
サービス提供体制強化加算	44 単位／回	1,080 件
介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）	所定単位×100/1000／月	173 件
初回加算	200 単位／月	20 件
看取り連携体制加算	64 単位／回	7 件

7. 今期のケース分析

訪問件数について、昨年度と今年度を比較すると 104 件減少した。考えられる要因としては、複数回利用の方の長期入院、利用終了が続き訪問が空いてしまう事が多々あった。新規依頼は看取りの方が多く、すぐに終了してしまったことも考えられる。また、月末報告書と一緒に空き情報を発信しているが、定期利用の新規依頼が昨年度より少なかった。今後は関係機関との連携強化や事業所周知を継続し、新規利用者獲得につなげていく。

8. 令和 6 年度事業計画目標 取組最終報告

1. 個々のレベルアップ

本年度は内部研修を実施し、移乗方法の再確認を行うことで安全な移乗介助の実践に努めた。介護度が高いご利用者が多い中、利用者ごとの状態に合わせた介助方法をスタッフ間で共有・検討し、安全な入浴の提供に努めた。

2. 顧客満足度の追求

安心・安全で心地よい入浴時間を提供できるよう努め、顧客満足度の向上を図った。
11 月に顧客満足度調査を実施し、不足な部分をスタッフ間で話し合い改善できるように努めた。

令和7年度 事業報告：居宅介護支援事業

1. 事業所名：いなさ園居宅介護支援事業所

2. 職員体制状況

職 種	員 数	所持基礎資格等、勤怠状況等
管 理 者	1 名	准看護師、主任介護支援専門員。介護支援専門員と兼務
介護支援専門員	5 名	介護福祉士、主任介護支援専門員 3 名、介護支援専門員 1 名※在宅サービス統括管理者（介護支援専門員兼務）1 名

3. 事業目標数、営業日数及び利用者動静

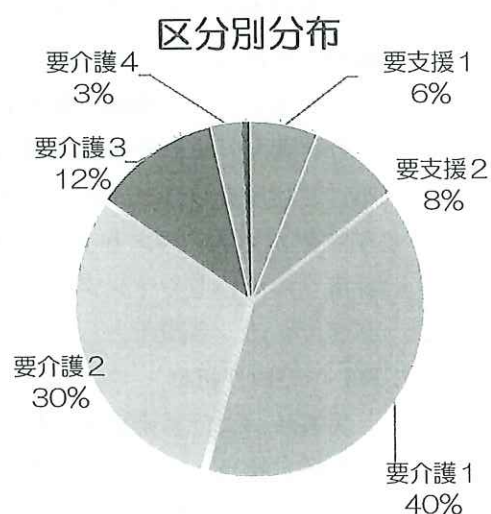
区 分	月/年間延べ目標件数	営業日数	新規登録	終了	3 月末登録
介護予防	1,605 件 /1,600 件	243 日	8 件	1 件	16 件
居宅介護			41 件	39 件	116 件

4. 事業実績（「()」内は昨年実績）

	件 数					
	介護予防マネジメント		居宅介護支援		合 計	
R7.4 月	9 件	(10 件)	124 件	(122 件)	133 件	(132 件)
5 月	9 件	(10 件)	123 件	(122 件)	132 件	(132 件)
6 月	9 件	(8 件)	128 件	(124 件)	137 件	(132 件)
7 月	10 件	(9 件)	127 件	(124 件)	137 件	(133 件)
8 月	12 件	(9 件)	117 件	(119 件)	129 件	(128 件)
9 月	13 件	(8 件)	123 件	(127 件)	136 件	(135 件)
10 月	14 件	(9 件)	117 件	(125 件)	131 件	(134 件)
11 月	15 件	(9 件)	119 件	(121 件)	134 件	(130 件)
12 月	16 件	(10 件)	120 件	(123 件)	136 件	(133 件)
R8.1 月	16 件	(9 件)	117 件	(119 件)	133 件	(128 件)
2 月	16 件	(11 件)	116 件	(115 件)	132 件	(126 件)
3 月	16 件	(10 件)	119 件	(121 件)	135 件	(131 件)
合 計	155 件	(112 件)	1,450 件	(1,462 件)	1,605 件	(1,574 件)

5. 介護認定等区分（「()」内は昨年実績）

区 分	人 数	
要支援 1	9 人	(1 人)
要支援 2	12 人	(9 人)
要介護 1	57 人	(56 人)
要介護 2	43 人	(48 人)
要介護 3	17 人	(14 人)
要介護 4	4 人	(3 人)
要介護 5	1 人	(1 人)
平均介護度	1.76	(1.75)



6. 加算取得状況

加算名	単位数	算定件数
特定事業所加算(Ⅱ)	407 単位/月	1,423 件

通院時情報連携加算	50 単位／月	0 件
入院時情報連携加算（Ⅰ）	200 単位／月	34 件
入院時情報連携加算（Ⅱ）	100 単位／月	23 件
退院・退所加算	Ⅰイ：カンファ無	450 単位
	Ⅰロ：情・有	600 単位
	Ⅱイ：情 2	600 単位
	Ⅱロ：情 2・カンファ有	750 単位
	Ⅲ：情 3・内カンファ有	900 単位
ターミナルケアマネジメント加算	400 単位／月	0 件
初回加算	300 単位／月	31 件
委託連携加算（介護予防 M）	300 単位／月	3 件

7. 今期のケース分析

昨年度同様に要介護度が上がるにつれ、登録者人数は減少している。要介護 4 以上の要介護者は、昨今の多様化する家族形態を鑑みると、在宅生活の継続が非常に困難から施設入所の希望が多い。新規申請者については、総合病院からの末期患者様や医療依存度の高い方の依頼が多く長期の支援に繋がり難かった。今年度から、職員も 6 名（兼務 1 名）体制で業務を行い、新規獲得のための働きかけを行っていたが、予防の件数は伸びたものの介護の件数は認められずサービスに繋がらない依頼も多く残念な結果になった。利用サービスについては、在宅での看取り支援の際に健康管理、機能維持回復目的での訪問看護（医療請求も含む）や、できるだけ自宅で生活できるようにと訪問リハビリテーションとの連携も行った。在宅診療医、栄養士、薬剤師、歯科医師による居宅療養管理指導の計画も必要に応じ取り組み、医療連携は活発になっている。デイサービスではリハビリ特化型の事業所が増え、自立支援目的での利活用が増加している。

8. 令和 7 年度事業計画目標 取組最終報告

1. 法令順守

昨年度も、軽微であるが制度改正が行われ、加算の変更、高齢者虐待防止や身体拘束の適正化についても再度説明している。引き続き、ご利用者及びご家族に向けて「担当ケアマネジャーについての満足度調査」も定期的に実施しており、質問事項についてわかり難いと意見があったため、実施の際には具体的な内容の見直しや検討を行い対応した。ご理解いただけるよう、取り組んでいきたい。

2. ケアマネジメント業務の見直し

今年度も、研修や事例検討会にも力を入れており、事業所としてもレベルアップしている。ご利用者及びご家族へのケアについても、介護力・精神力ともバックアップできるようにケアマネジメント手法を身につけ知識や理解力の向上に努めた。要介護者や難病の方、身寄りのない方やヤングケアラーが在宅生活を送るうえで、地域や行政、包括との協力も必要である。事業所としても、地域との連携をさらに強化していくよう心掛けたい。

3. BCP への取り組み

災害時および感染症発症時における BCP 作成について、今年度も行政機関からの依頼により各自担当しているご利用者のプラン作成を行った。昨年度からは、BCP 訓練も実施しており、今まで以上に具体的な避難プランや想定を考慮しながら訓練できるように備えていくことが必須となっている。

令和7年度 全期事業報告：訪問看護事業

1. 事業所名：いなさ園訪問看護ステーション

2. 職員体制状況

職 種	員 数	所持資格、勤怠状況等
管 理 者	1 名	看護師。訪問看護員と兼務
訪問看護員	7 名	看護師 6 名 准看護師 1 名

3. 事業目標数、営業日数及び利用者動静

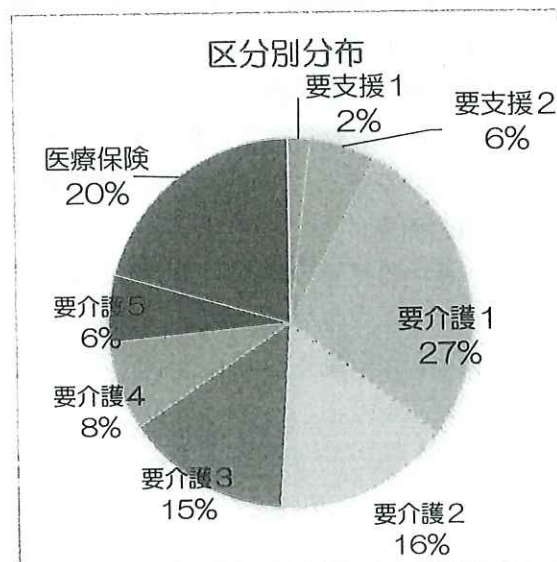
区 分	月/年間延べ目標件数	営業日数	新規登録	終了	3 月末登録
介護保険	210 件/2520 件	304 日	23 件	27 件	52 件
医療保険	90 件/1080 件		9 件	12 件	9 件

4. 事業実績（「()」内は昨年実績）

	件 数					
	介護保険		医療保険		合 計	
4 月	236 件	(263 件)	93 件	(115 件)	329 件	(378 件)
5 月	229 件	(257 件)	99 件	(115 件)	328 件	(372 件)
6 月	226 件	(264 件)	83 件	(97 件)	309 件	(361 件)
7 月	214 件	(282 件)	94 件	(140 件)	308 件	(422 件)
8 月	172 件	(251 件)	63 件	(128 件)	235 件	(379 件)
9 月	177 件	(244 件)	81 件	(103 件)	258 件	(341 件)
10 月	209 件	(268 件)	53 件	(105 件)	262 件	(373 件)
11 月	172 件	(234 件)	71 件	(76 件)	243 件	(310 件)
12 月	195 件	(257 件)	88 件	(78 件)	283 件	(335 件)
1 月	206 件	(244 件)	47 件	(84 件)	253 件	(328 件)
2 月	154 件	(221 件)	49 件	(105 件)	203 件	(326 件)
3 月	182 件	(257 件)	78 件	(99 件)	260 件	(356 件)
合 計	2,372 件	(3,042 件)	899 件	(1,245 件)	3,271 件	(4,287 件)

5. 介護認定等区分（「()」内は昨年実績）

区 分	人 数
要支援 1	2 人 (2 人)
要支援 2	6 人 (4 人)
要介護 1	28 人 (23 人)
要介護 2	16 人 (11 人)
要介護 3	15 人 (6 人)
要介護 4	8 人 (6 人)
要介護 5	6 人 (3 人)
平均介護度	2.09 (2.08)
医療保険	21 人 (13 人)



6. 加算取得状況※介護保険部分のみ

加 算 名	単 位	算定件数
特別管理加算Ⅰ・Ⅱ	500 単位／Ⅰ	46 件
	250 単位／Ⅱ	29 件
ターミナルケア加算	2500 単位	0 件
緊急時訪問看護加算	574 単位／月	269 件
サービス提供体制加算Ⅰ	(Ⅰ) 6 単位／回	287 件
看護体制強化加算：予防	100 単位／月	算定なし
看護体制強化加算Ⅱ	200 単位／Ⅱ	253 件
退院時共同指導加算	600 単位／回	4 件
複数名訪問看護加算	254 単位／30 分未満、402 単位／30 分以上	0 件
初回加算	300 単位	3 件

※予防訪問看護、訪問看護共通名称：特別管理加算、緊急時訪問看護加算、サービス提供体制強化加算、退院時共同指導加算、複数名訪問看護加算

7. 今期のケース分析

スタッフ減員となり、登録者数を大幅に減らした。8 月まではスタッフ 4 名での対応だったため、新規利用者の受け入れも 2 カ月程度控えており、昨年度と比較すると大幅な収入減となった。9 月以降、スタッフも徐々に増員され、新規受け入れも再開したが、依頼が少なく、思うような巻き返しとはいかなかった。そのため、利用者確保に向け、各居宅介護支援事業所や病院への広報活動を行った。年度末には少しずつ依頼も増えてきつつある。

7. 令和 7 年度 事業計画目標 取組最終報告

1. 一人一人の利用者に対し在宅生活の方向性を明確にし、統一したケアを提供する。

週 1 回、所内でのケースカンファレンスを行い、各受け持ち利用者の課題等について検討してきた。スタッフ全員で情報共有することにより、現場での統一したケアの実施に反映できていると感じる。

また、他のスタッフからの発信により、今、利用者が求めていることについても素早くキャッチすることが出来、利用者の「やりたいこと」をタイムリーに叶える支援にも力を入れてきた。新採用のスタッフも徐々に慣れ、発言も増えてきた。積極的なディスカッションが行えている。

2. 働きやすい職場作り。

5 月から勤務時間も変わり、それに伴い、スタッフそれぞれが 1 日のスケジュール管理をしっかり行うことで、時間内に仕事をこなすことが出来ている。就業時間の短縮は家庭と仕事の両立にも大きく関わっており、スタッフのモチベーションアップにもつながった。

所内の掃除や整理整頓は都度行っており、作業しやすいスペースの確保に努めている。

スタッフとの個人面談も実施し、それぞれの想いを聴くことで、悩みの解決や新たな提案についても動くことが出来た。なんでも言い合える職場作りを今後も目指したい。

令和7年度 特別養護老人ホームみせんの里 事業報告書

令和8年3月31日現在

1. 特養部門年次目標について

- ・表V参照

2. 入居者の動向について

① 入所者数

男 性	15名	計 67名
女 性	52名	

②入退所状況

入 居	男 性	7名	計 31名
	女 性	24名	
退 所	男 性	6名	計 25名
	女 性	19名	

③退所理由

	園にて死亡	園外にて死亡	医療機関入院	その他
人 数	15名	7名	3名	0名

④年齢構成・在籍期間

		平均年齢	最高年齢	在籍期間
男 性	15名	82歳 4月	96歳 2月	2年1ヶ月
女 性	52名	90歳 0月	103歳0月	2年6ヶ月
計	67名	88歳 4月	103歳0月	2年5ヶ月

⑤平均介護度

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
男 性	0	1	3	8	3	3.87
女 性	0	0	5	29	18	4.25
計	0	1	8	37	21	4.16

⑥入居者の移動状況

- ・表VI 参照

⑦ベッド稼働率

- ・表VII 参照

3. 入居者の生活

①入居者支援

i) ユニットケア

入居者10人をひとつの単位『ユニット』とし、介護職員も約5名を固定配置し、他のユニット職員とも協力を図りながら、入居者個々が個別の生活を営めるよう支援した。ターミナル時の取り組みなど、よりその人らしい生活を送ってもらうための取り組みを行えた。

ii) ユニットリーダー会

月に1回以上、各リーダー、施設長、相談員、看護主任、栄養士をメンバーとし、各ユニットからあがる課題や、施設全体のケアの方向、ユニット間の課題の調整など、施設の全体的なケアの中心となる会議と位置づけ行なった。

iii) ユニット会

各ユニットごとに月1から2回程度開催し、入居者個々のカンファレンスや、ユニット内の課題の解決を行った。

iv) 専門委員会

新たに生産性向上委員会を立ち上げた。その他各委員会ごとの活動を行った。

v) 介護相談事業

3ヶ月に1回の受入れを行った。感染対策の為会議室で個別に対応してもらった。

1回の訪問で4名程度の入居者の方と面談していただき、要望については日常の対応に生かした。

vi) 面会について

1回につき、人数は3名まで、時間は30分以内の制限を行いながら居室で対面での面会が出来るよう対応を行った。看取り期にある入居者については、制限を行わない方向で個別の対応を行った。

4. 施設実習受入れ

実習受任施設 トリニティカレッジ出雲校 2/9～18 2名

出雲医療看護専門学校 9/24.25 9/26.30 10/2.3 計6名

島根県立大学看護学科 10/20～24 10/27～30 計4名

5. 年間行事

- ・花見遠足 3/27～4/9 ユニット毎にワイナリー他 ・遙堪ふるさと祭り参加 8/13
- ・七夕祭り ・花火等・・・ユニット毎に企画し実施
- ・敬老祝賀会 9/13(土)・・・規模を縮小し節目の対象のご利用者家族で式典を行い、食事会は入所者のみで実施
- ・忘年会 12/18(木) ・クリスマス会 各ユニットにて ・書初め 1/9(金)
- ・節分祭 2/3(月) ・雛祭り 各ユニットにて
- ・その他～
 - ・誕生会 毎月(各ユニットごとに実施)
 - ・その他 各ユニットごとに食事会等実施

6. クラブ活動

- ・喫茶・生け花 新型コロナウイルス感染予防の為中止

7. 短期入所生活介護

短期入所 i ベッド数 10

ii 基本数 3650 (ベッド数×総日数)

iii 延利用実数 2799人

iv 稼働率 76.7% ※表Ⅶ参照

8. コロナ感染症

職員の単発的な感染はあったが、入居者への感染はなかった。

令和7年度事業報告（看護部門）

1. 職員体制

常勤看護職員 4名 非常勤看護職員 4名、機能訓練員 1名

2. 利用者の健康管理に関すること

- ・介護職員との連携をとり、有熱者・要観察者の観察を行い、異常の早期発見に努めた。
- ・状態の悪化や変化がある場合、家族への報告、連絡を行い対応した。
- ・体重測定や定期健診の結果を元に、栄養士との連携を行い栄養状態の評価を行った。
- ・内服薬の管理、内服指導。
飲みやすい形態に変更したり、服薬できない時の調整を行った。
- ・少しでも薬剤量を減らすことが出来るよう、便性の観察を行い、緩下剤の調整を行った。
- ・定期的な病院外来受診への対応と、家族との連絡調整、報告を行った。
- ・嘱託医への状況報告や指示を受けることを行った。

3. 栄養・食事に関すること

- ・病院退院後または治療食中など、カロリー、塩分、たんぱく質の管理を行い、栄養士と共にご利用者の状態に合わせた形態に変更し、食べやすさの工夫を行った。
- ・誤嚥や嚥下障害のある方には観察を十分に行い、トロミの調整、食事量の調整、時間調整をすることにより、安全に食べていただけるよう配慮した。
- ・経管栄養法（経鼻、胃ろう）の管理
1日3回注入を行い嘔吐や誤嚥の無いよう注意して実施した。栄養量の調整も行った。

4. 感染予防に関すること

- ・入居者の肺炎球菌・インフルエンザワクチンの接種
- ・感染症の予防の為、マスクの着用、消毒、手洗い等の徹底の喚起を行うとともに、ガウンや消毒液などの必要物品の確保も行った。又個別で休憩できる場所の確保などの相談も行った。
- ・年度を通し、職員の新型コロナウイルスやインフルエンザの感染が単発的に確認されたが、職員から入居者の感染は予防できた。

5. 救急看護に関すること

- ・昼夜を問わず、急変時医師への報告と共に、家族、医療機関への連絡、搬送と行った。
- ・救急処置（蘇生・酸素・吸引等）

6. ショートステイご利用者の健康管理

7. 終末期ケアに関すること

- ・終末期が安楽に、その人らしく過ごせるよう、家族との話し合いをもちながら、ケアプランを立案することにより、情報の共有に努めることが出来た。
- ・相談員・介護職員とともに終末期を中心とした医療の意向の確認を行い記録に残すことで、意向に添った対応を行うことができた。

8. 介護職員へのサポートと、医療的技術に関する指導、実施を行った。

9. 医療用物品、薬品の管理

10. 入所に関する調査や医療機関からの退院情報を多職種と話し合いを持ちながら、入所退院調整を行った。必要時には病棟カンファレンスに参加した。

11. 協力医療機関である出雲市総合医療センターとは、ルピナスを通しての情報提供と、3か月に1度の定期的な連絡会を開催した。

令和7年度事業報告書(調理部門)

1、行事食 季節献立について

4月	お花見献立	9月	敬老の日献立（お弁当）	1月	おせち料理
5月	端午の節句献立	9月	デイサービス敬老週間	2月	節分献立
7月	七夕献立	11月	おでん・ラーメンの提供	3月	桃の節句献立
8月	デイサービス納涼祭週間	12月	クリスマス献立	3月	ぼたもち作り
		12月	大晦日献立	3月	さくらもち作り

2、入所者の食事形態別人数（令和8年3月31日現在 本入所のみ）

形態	給食数															
	主食										副食					
	米飯	おにぎり	全粥	七分粥	五分粥	おもゆ	ミキサー	パン	経管栄養	合計	軟菜並	刻み	小刻み	超刻み	ミキサー	経管栄養
朝	22	3	25				10	3	1	65	25	2	10	12	15	1
昼	24	4	27				10	0	0	65	25	2	10	12	16	0
夕	26	3	26				10	0	1	66	25	2	10	12	16	1

3、入所者の食事について

①咀嚼、嚥下困難な方への対応

- ・個々の摂食機能の状態により、トロミ調整食品、寒天、ゼラチン、ゼリーの素を使用
- ・摂食障害があり誤嚥のリスクが高い人にはソフト食の提供を行った

②嗜好、アレルギー、禁忌食品等の可能な限り代替を行なった

③療養食の対応 現在は加算対象者なし

④栄養量、食事量について

- ・入所者個々の身長・体重・年齢・性別・活動量・ストレス係数で必要量を算出したうえで数値を目安にし、ご本人の喫食状況、食事の様子、体調や希望をお聞きして食事量を調整した
- ・食事摂取量、栄養状態により必要な方には栄養補助食品を提供した
栄養補助食品は食べやすさに合わせて飲料タイプとゼリータイプなど用意し個別に対応した

4、その他、食事の取り組み

①感染予防を行いながら、ユニット単位の少人数で、食事作り・おやつ作りを行った

また、季節・行事ごとのイベントやたけのこ・ふきの皮むきなど季節の野菜の下処理を利用者と一緒に行った

出前をとり普段とは違った食事を食べていただく機会などを設けた

②手作りおやつの提供

毎月 1.2 回程度、和・洋さまざまな手作りおやつを用意した

季節感や見た目にも気を配り、楽しんでいただけるようなおやつを提供した

③デイサービス

普段の一汁三菜のお膳とは違う食事を楽しんで頂く為に、季節感を感じるお弁当を作成した。敬老会や納涼会ではちらし寿司や井ぶりなどの食事や一つの皿に沢山の品数が出た彩の良い食事を作り利用者様に食べていただいた

また、野菜と調味料を用意し、デイサービスの職員がその場で汁物、和え物等を作り出来立ての温かい食事を提供した

5、給食延べ食数（令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

みせんの里 入所	67,758 食
ショートステイ	7,200 食
デイサービス	5,744 食

表 V

令和 7 年度 年次目標に関する評価

【みせんの里 特養部門】

【全体目標】	
目標 1	業務の効率化を目的とした介護ロボットや I C T 導入に向けてプロジェクトチームを作り、取り入れるための情報の収集やプロセスを具体的に検討する。
評価	生産性向上委員会を立ち上げ、委員を中心に外部研修や福祉機器の展示会等にも積極的に参加した。次年度は委員会を中心に、施設の課題の把握から業務の効率化に向けた計画を作成し、改善に向けた取り組みを行う予定。
目標 2	コロナ禍から様々なことを従来に近づける中で、行事や面会の機会を通してご家族との信頼関係を構築し、入居者へのケアの充実へつなげる。
評価	自宅への外出や、行事としての家族との外出など少しずつではあるが、家族と職員の接点を持つことができています。面会時にも普段の様子を伝えるとともにこれまでの様子など情報を得るように努めた。
目標 3	開設 20 年を迎える中、機器の更新や建物の修繕を計画的に実施し、過ごしやすい環境を提供する。
評価	金額の大きいところではベッドを 40 台、補助金を活用し更新した。更新が必要なものの計画的な更新と、突発的な故障等も極力入居者の生活に支障がないよう対応した。

【事務部門】	
目標 1	介護ロボットや I C T 導入に向け、プロジェクトチームと連携して適切な機器および業者選定の検討に取り組む。
評価	プロジェクトチームを中心に、市場にある複数の機器について業者からの情報収集を行った。今後、現場での運用ルールやコスト面での調整など、導入に向けた具体的な課題をクリアした上で、最適な機器および業者選定を進める。
目標 2	福祉充実計画のスケジュールに基づきつつ、状況を見極めながら適切な時期に機器の更新等を計画のうえ実施する。
評価	福祉充実計画を軸としつつ、入居者の生活環境向上を最優先に最新ベッドへの更新を実施し、利用者の安全性と快適性を早期に向上できた。
【支援相談部門】	
目標 1	入居者及びご家族からの信頼と評価を高めるため、情報を継続的に届けるとともに、ご意向を反映させる。
評価	定期的な連絡や面会時の情報共有により関係構築につながった。また、入居者・ご家族の希望を他職種で共有しケアに反映できる場面が増えた。ご家族個々による差はあるが、次年度以降も家族とのコミュニケーションの機会を増やし、わかりやすい説明と丁寧な対応を心がける。
目標 2	入居者の価値観やニーズを理解し、その方の望む生活の構築に取り組む。
評価	日々の関りやカンファレンスを通じて、入居者一人ひとりの生活歴や希望を把握し個性を意識した支援につなげることができた。身体状況や認知機能の変化により実現が難しい場面もあった。次年度以降、他職種連携を今以上に強化し、状態に合わせた支援を継続する。

【介護部門】	
目標 1	入居者の暮らしの安心・安全を確保するため、介護機器を積極的に導入し、業務の効率化と職員の負担軽減も図る。
評価	センサー付きのベッドの導入以外は、新たな機器の導入は難しく、今ある機器の活用にとどまった。研修参加や上方収集により職員全体で安全かつ効果的な機器の導入を進めていく。
目標 2	ヒヤリハット、事故報告の内容を検証し、事故防止につなげる。
評価	ヒヤリハットや事故報告を他職種で共有し、原因分析や再発防止につなげた。報告内容は職員による個人差があり、原因分析が不十分なケースも見られるため、報告基準の統一と振り返りが今後の課題となった。
目標 3	入居者とのコミュニケーションを大切にし、得た情報を基に適切なサービス提供を行う。
評価	業務優先となり、十分な関りを確保できない場面はあったが、日常的なコミュニケーションを通して入居者の体調変化や思いを把握しケアに反映することができた。生産性向上の取り組みを通し、かかわる時間の確保に努めケアの質を確保していく。
【看護部門】	
目標 1	感染症対策を強化することで、施設内の衛生環境を維持し利用者、職員の健康を守る。
評価	新型コロナの感染の波や、インフルエンザの大きな流行はあり、職員の感染は見られたがマスクの継続着用、換気、手洗い、手指消毒の実施により施設内に持ち込むことはなかった。
目標 2	入居者、家族双方とコミュニケーションを図り、病状の変化等わかりやすく伝え、安心して過ごせるよう支援する。
評価	多職種のコミュニケーションやホワイトボードの活用により、職員間での利用者の状況把握、面会時の伝達等スムーズに行えた。
【機能訓練部門】	
目標 1	褥瘡予防の具体的な方法について、介護職員とも情報共有を行い、適切なケアが継続できるよう支援する。
評価	個々の疾患により、処置が長期におよんだこともあり、疾病の特徴も含め情報共有に努める。
【調理部門】	
目標 1	厨房の業務工程を見直し、効率的な業務の流れを考えながら、入居者個人に合わせた個別対応が行えるようにする。
評価	個別対応が必要、希望する人が増える中、細やかな対応を行えた。
目標 2	行事食の提供やおやつ作りを行い、季節感や楽しさを感じることが出来る食事を目指す。
評価	季節ごとの行事食を提供し、生活の楽しみとなるよう献立も工夫した。おやつは提供するだけでなく、ご利用者と一緒に作る機会を増やした。来年度以降はこのような機会を増やしていきたい。
【短期入所部門】	
目標 1	居宅介護支援事業所と情報交換を綿密に行い、空床情報等を提供し、定期利用の方以外の緊急利用も向け入れ稼働率の安定を図る。
評価	毎月空き状況を各事業所に公表した。ただ新規利用者の希望がすでに利用の多い週末に偏っており利用につながらないケースが多かった。今後もこの傾向は続くと思われ、引き続き平日のご利用ができる方を受入れ、稼働の安定を図りたい。
目標 2	職員間で利用者の情報共有を密に行い、ご利用者が安心、安全な生活を送れるよう援助する。
評価	職員間の伝達は、ワイズマンや申し送りノートを活用し、職員が入れ替わってもスムーズに対応できるよう取り組むことができた。ご家族とは自宅での様子が伝わるよう連絡ノートの活用をお願いし一部の家族とは連携が履かれた。今後も引き続きお願いをしていく。

表Ⅵ

令和7年度 特別養護老人ホームみせんの里 入居者移動状況表

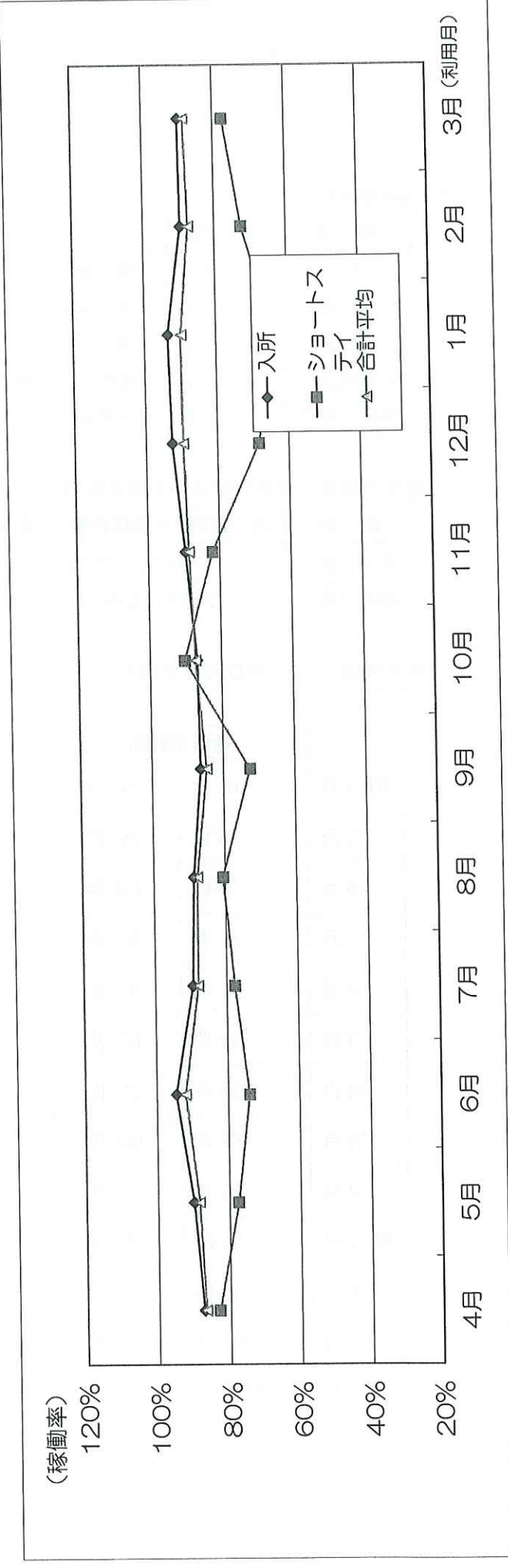
4月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	3		1		63		1833		0		0		2		25	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	3	0	1	14	49	420	1413	0	0	0	0	0	2	0	25
5月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	6		2		67		1950		0		0		3		34	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	2	4	1	1	15	52	401	1549	0	0	0	0	2	1	27	7
6月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	2		2		67		1984		0		0		3		30	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	1	1	1	15	52	431	1553	0	0	0	0	2	1	22	18
7月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	1		3		65		1941		0		0		7		72	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	1	2	1	13	52	407	1534	0	0	0	0	1	6	1	71
8月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	2		3		64		1926		0		0		7		86	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	2	1	2	12	52	368	1558	0	0	0	0	2	5	14	72
9月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	3		6		61		1815		0		0		6		91	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	3	0	6	12	49	360	1455	0	0	0	0	0	6	0	91
10月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	4		2		63		1885		0		0		6		38	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	3	0	2	13	50	380	1505	0	0	0	0	0	6	0	38
11月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	3		0		66		1882		0		0		4		44	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	2	1	0	0	15	51	407	1475	0	0	0	0	1	3	13	31
12月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	2		2		66		2011		2		5		1		11	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	2	0	2	15	51	464	1547	1	1	3	2	0	1	0	11
1月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	0		0		66		2029		2		5		1		15	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	0	0	0	15	51	450	1579	0	2	0	5	1	0	15	0
2月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	3		3		66		1755		0		0		9		102	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	1	2	1	2	15	51	375	1380	0	0	0	0	5	4	64	38
3月	新規入所		退所		月末在籍		入所実数(人数)		外泊		外泊(日数)		入院		入院実数(日数)	
	2		1		67		1950		0		0		7		69	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	0	2	0	1	15	52	431	1519	0	0	0	0	4	3	33	36

令和7年度 特別養護老人ホームみせんの里利用状況表

表Ⅶ

利用月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日
入所	ベッド数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	840
	基本数 (ベッド数×総日数)	2100	2170	2100	2170	2170	2100	2170	2100	2170	2170	1960	2170	25550
	延利用実数	1833	1950	1984	1941	1926	1815	1885	1882	2011	2029	1755	1950	22961
短期入所	稼働率	87.3%	89.9%	94.5%	89.4%	88.8%	86.4%	86.9%	89.6%	92.7%	93.5%	89.5%	89.9%	89.9%
	ベッド数	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
	基本数 (ベッド数×総日数)	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	280	310	3650
合計	延利用実数	249	240	222	241	250	218	280	246	212	198	203	240	2799
	稼働率	83.0%	77.4%	74.0%	77.7%	80.6%	72.7%	90.3%	82.0%	68.4%	63.9%	72.5%	77.4%	76.7%
	ベッド数	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	960
	基本数 (ベッド数×総日数)	2400	2480	2400	2480	2480	2400	2480	2400	2480	2480	2240	2480	29200
	延利用実数	2082	2190	2206	2182	2176	2033	2165	2128	2223	2227	1958	2190	25760
	稼働率	86.8%	88.3%	91.9%	88.0%	87.7%	84.7%	87.3%	88.7%	89.6%	89.8%	87.4%	88.3%	88.2%

※ 短期入所は振替・身障利用を含む。



令和7年度 事業報告：通所介護事業

1. 事業所名：みせんの里デイサービスセンター

2. 職員体制状況

職 種	員 数	所持資格、勤怠状況等
管 理 者	1 名	介護支援専門員・社会福祉主事
生活相談員	1 名	介護福祉士
介護職員	5 名	介護福祉士 5 名（内 1 名は生活相談員と兼務）
看護職員	2 名	看護師 2 名（機能訓練員と兼務）
機能訓練員	1 名	作業療法士

3. 事業目標数、営業日数及び利用者動静

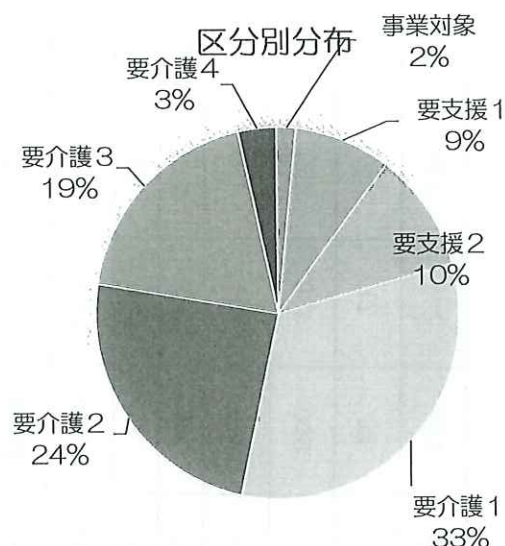
区 分	月/年間延べ目標件数	営業日数	新規登録	終了	3 月末登録
通所型独自	60 件/720 件	255 日	6 件	10 件	13 件
通所介護	390 件/4, 680 件		17 件	40 件	57 件

4. 事業実績（「()」内は昨年実績）

	件 数					
	通所型独自		通所介護		合 計	
R7.4 月	63 件	(63 件)	436 件	(449 件)	499 件	(512 件)
5 月	56 件	(65 件)	428 件	(441 件)	484 件	(506 件)
6 月	59 件	(51 件)	438 件	(400 件)	497 件	(451 件)
7 月	57 件	(60 件)	497 件	(450 件)	554 件	(510 件)
8 月	51 件	(62 件)	437 件	(411 件)	488 件	(473 件)
9 月	48 件	(57 件)	463 件	(397 件)	511 件	(454 件)
10 月	56 件	(73 件)	481 件	(425 件)	537 件	(498 件)
11 月	52 件	(68 件)	412 件	(405 件)	464 件	(473 件)
12 月	54 件	(75 件)	410 件	(394 件)	464 件	(469 件)
R8.1 月	47 件	(63 件)	365 件	(369 件)	412 件	(432 件)
2 月	46 件	(55 件)	369 件	(384 件)	415 件	(439 件)
3 月	53 件	(60 件)	416 件	(415 件)	469 件	(475 件)
合 計	642 件	(752 件)	5, 152 件	(4, 940 件)	5, 794 件	(5, 692 件)

5. 介護認定等区分（「()」内は昨年実績）

区 分	人 数
事業対象者	1 人 (1 人)
要支援 1	5 人 (4 人)
要支援 2	6 人 (8 人)
要介護 1	19 人 (18 人)
要介護 2	14 人 (19 人)
要介護 3	11 人 (9 人)
要介護 4	2 人 (0 人)
要介護 5	0 人 (2 人)
平均介護度	1.8



6. 加算取得状況

加算名	単位数	算定件数
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）：独自	88 単位/月、176 単位/月	642 件
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）：介護	22 単位/回	5,152 件
個別機能訓練加算（Ⅰ）ロ	76 単位/日	3,174 件
個別機能訓練加算（Ⅰ）イ	56 単位/日	217 件
入浴介助加算（Ⅰ）	40 単位/日	4,587 件
ADL 維持等加算（Ⅰ）	30 単位/月	0 件
ADL 維持等加算（Ⅱ）	60 単位/月	0 件
科学的介護推進体制	40 単位/月	0 件
口腔栄養スクリーニング加算（Ⅰ）（Ⅱ）	Ⅰ：20 単位/回、Ⅱ：5 単位/回	0 件
栄養アセスメント加算	50 単位/月	0 件
介護職員処遇改善加算Ⅰ：独自	所定単位×92/1000	642 件
介護職員処遇改善加算Ⅰ：介護	所定単位×92/1000	5,152 件

7. 今期のケース分析

上半期は安定していたが、R8 年 1 月から 3 月にかけて複数回利用の方の老健入所、入院が毎月 1, 2 名あり稼働率が低迷した。入所、入院いずれも短期間の予定でとの話であり、新規利用者を取ることができにくかった。

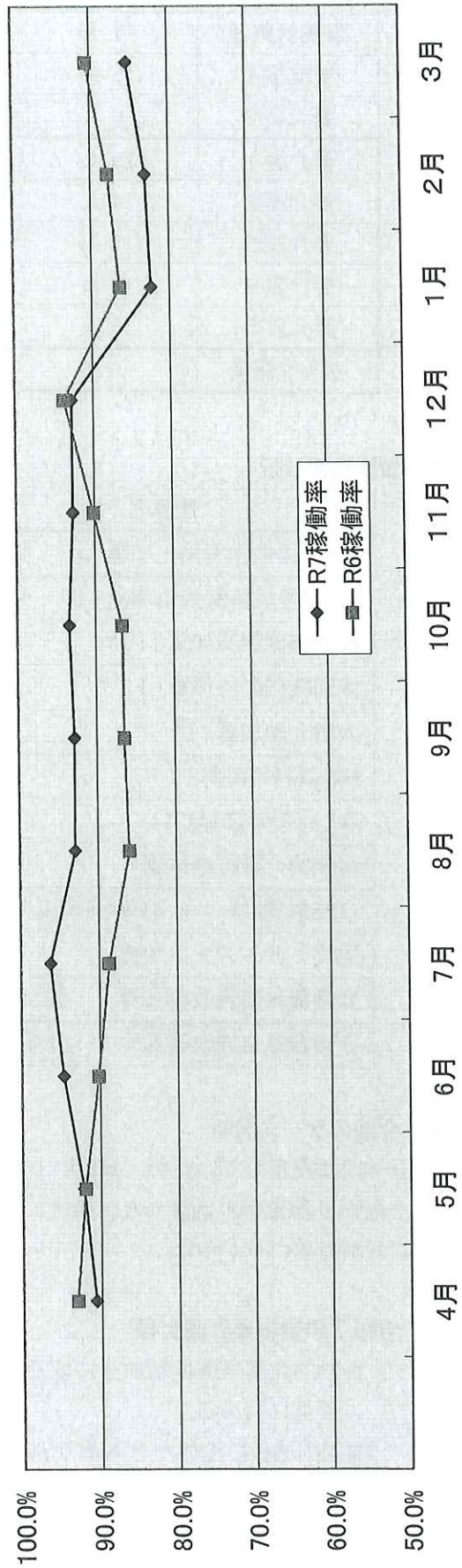
8. 令和 7 年度事業計画目標

- 科学的介護推進体制加算に取り組み、利用者の自立支援につなげると共に、質の高いサービス提供に努める。
 - 機能訓練員の産休などもあり、加算の取得はできなかった。来年度以降の取り組みとしたい。
- 稼働率を上げるよう、デイサービスの強みを作り、他事業所との差別化を図る。
 - 目標の稼働率は確保することができた。新規利用者の獲得が以前よりも難しい中、他事業所がどのように取り組まれているか情報収集に努めた。今後はみせんの里でも強みとなるような事ができるよう取り組んでいきたい。

令和7年度ディサービス稼働状況

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	22	21	21	23	21	22	23	20	20	20	21	22	256
(定員) × (日数)	550	525	525	575	525	550	575	500	500	500	500	550	6375
利用延人数	499	484	497	554	488	511	537	464	464	412	415	469	5794
(介護)	436	428	438	497	437	463	481	412	410	365	369	416	5152
(総合)	63	56	59	57	51	48	56	52	54	47	46	53	642
R7稼働率	90.7%	92.2%	94.7%	96.3%	93.0%	92.9%	93.4%	92.8%	92.8%	82.4%	83.0%	85.3%	90.9%
R6稼働率	93.1%	92.0%	90.2%	88.7%	86.0%	86.5%	86.6%	90.1%	93.8%	86.4%	87.8%	90.5%	89.7%

R7年度 月別稼働率



令和7年度 事業報告：グループホームきづきの家

令和8年3月31日現在

1. 入居者動向

①入居者数（「」内は昨年実績）

性 別	人 数	合 計
男 性	3名 (3名)	18名 (17名)
女 性	15名 (14名)	

②入退居状況（「」内は昨年実績）

性別	区分	R7.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	入居	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)
	退居	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)
女性	入居	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)
	退居	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)
月末在籍者人数		18(18)	18(18)	18(8)	18(16)	18(18)	18(18)	18(18)
性別	区分	11月	12月	R8.1月	2月	3月	合 計	
男性	入居	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(1)	
	退居	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	
女性	入居	0(0)	2(0)	0(0)	1(0)	0(0)	4(1)	
	退居	2(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(1)	3(2)	
月末在籍者人数		16(18)	17(18)	16(18)	18(18)	18(17)	211(213)	

③退居者状況

死亡退居	11月：女性/1名、12月：男性/1名
長期入院等退居	11月：女性/1名、1月：女性/1名

④平均介護度（「」内は昨年実績）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均
男性	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	2(2)	0(0)	0(0)	2.6(2.6)
女性	0(0)	0(0)	7(5)	4(4)	2(2)	1(2)	1(1)	2.0(2.3)
合計	0(0)	0(0)	7(5)	5(5)	4(4)	1(2)	1(1)	2.1(2.4)

⑤ベット稼働率

別紙_表Ⅷ_参照

2. 運営推進会議

①開催結果

第一回	5月27日(火)/出席者：11名	第四回	11月27日(木)/出席者：7名
第二回	7月29日(火)/出席者：9名	第五回	1月29日(木)/出席者：8名
第三回	9月25日(木)/出席者：10名	第六回	3月26日(木)/出席者：13名

②出席者

出雲市高齢者福祉課職員 ・ 南本通町内会長 ・ 民生児童委員
入居者家族代表 ・ 利用者 ・ きづきの家（開設者、管理者、職員）

3. 行事計画

- ・全体行事： 9月/敬老祝賀会、アクアスに遠足
- ・ユニット季節行事：季節にちなんだ行事を実施。地域で行われている祭：不参加。

4. 避難訓練実施状況

- ・火災発生時避難訓練（第一回）/11月4日（火）
夜間想定：結ユニットから出火。 避難場所/駐車場
訓練後に大社消防・山陰防災より評価をうける。
○参加者：大社消防（3名）山陰防災（2名）、施設職員（8名） 利用者（18名）
- ・火災発生時避難訓練（第二回）/3月19日（木）
夜間想定：縁ユニットから出火。避難場所/駐車場
訓練後に山陰防災より評価をうける。
○参加者：山陰防災（1名）、施設職員（10名） 利用者（18名）
- ・水害避難訓練（第一回）/11月4日（火）
洪水発生想定：避難経路確認、避難場所/いなさ園（車両往復移送）
○参加者：施設職員（8名）、いなさ園協力職員（1名）、利用者（18名）
- ・水害避難訓練（第二回）/3月19日（木）
洪水発生想定：避難経路確認、に何場所/いなさ園（車両往復移送）
○参加者：施設職員（10名）、いなさ園協力職員（1名）、利用者（18名）

5. 地域との関わり

- ・南本通町内会（第2班）に加入。町内会行事へは内容を見て可能な範囲で参加。
- 参加行事一覧

大社地区一斉清掃	6月1日（日）
大社地区一斉防災訓練	9月7日（日）
秋葉神社夏祭り	6月15日（日）
秋の荒神社祭	10月13日（日）
町内掃除	12月21日（日）
新年賀会	1月5日（月）
とんどさん	1月12日（日）

6. 実習生受け入れ状況

- ・トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校 2名
- ・島根県立大学 出雲キャンパス 7名

7. その他

2か月に一回広報誌を作成し発行

8. 年間目標_評価

【重点目標】	
目標①	家庭的な環境で食事・入浴・排泄等の日常生活上を手伝うことにより、利用者が有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るように支援していく。
評 価	利用者一人一人の残されている力を理解し、日常生活の場面でその力が生かせる よう支援した。
目標②	長く続いたコロナ禍によって、休止や縮小をしていた行事や地域公益的な活動について再開を検討し、安全に開催出来るように企画、実施します。
評 価	遠足を計画し、アクアスへ出かけた。また、買い物や外出など外に出かける機会を増やしコロナ前の生活に近づけるよう努力した。
目標③	安心できる環境作りを行う。(感染症防止・居室空間など)
評 価	利用者一人一人が、安心して生活が送れるよう環境を整えている。また、感染対策にも引き続き心掛けた。
目標④	職員の内部研修・外部研修を積極的に参加し、職員の質・知識・技術の向上を目指す。
評 価	職員の内部研修や認知症実践者研修などの外部研修に参加し、スキルアップを目指した。
【支援相談部門】	
目標①	利用者個々のニーズに合わせた個別支援の充実。利用者の心身の状態の把握をし、その人らしい生活を支援する。
評 価	居室担当を中心に、個別ケアの充実に努めたが、十分ではなかった。
目標②	個別支援に基づいた支援を行い、支援経過の記録や会議等で共有し、それに基づいた評価・見直しを行い実施する。
評 価	カンファレンスの記録や日々の様子をきちんと記録し、ユニット会で共有見直しに努めた。
【介護部門】	
目標①	認知症ケアの基礎を理解し、全職員が一定のレベルに達し質の高いサービスを提供する。
評 価	職員の認知症に対する理解にどうしても差が出てしまい、質の高いサービスの提供が出来なかった。
目標②	きづきの家で生活されている利用者を、ユニット越えて全員でケアしている意識を持ち協力し職員全員が同じ方向を向いてケアできるようにする。
評 価	自分の配属ユニットだけでなく、他のユニットにも目を向け全職員でケアしていることを意識づけるよう努力した。

令和7年度 グループホームきづきの家 利用状況

利用日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	31日	30日	31日	31日	28日	31日	365日
ベット数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
基本(ベット数×総日数)	540	558	540	558	558	540	558	540	558	558	504	558	6570
新規入所人数	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	4
総入所人数	18	18	18	18	18	18	18	16	17	16	18	18	211
退所人数	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
入院人数	1	0	1	4	0	1	1	1	1	1	0	0	11
入院日数	6	0	18	67	0	7	9	11	15	14	0	0	147
外泊人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延利用実数	514	558	522	491	558	533	549	496	496	527	478	558	6280
令和7年度_稼働率	95.19%	100.00%	96.67%	87.99%	100.00%	98.70%	98.39%	91.85%	88.89%	94.44%	94.84%	100.00%	95.59%
令和6年度_稼働率	100%	95.88%	93.89%	93.91%	89.78%	96.85%	99.28%	100.00%	92.83%	95.52%	100.00%	99.10%	96.58%

